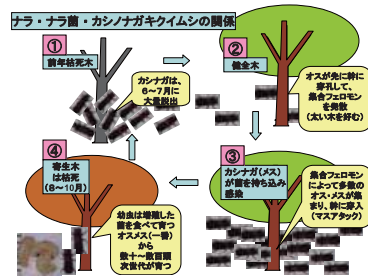
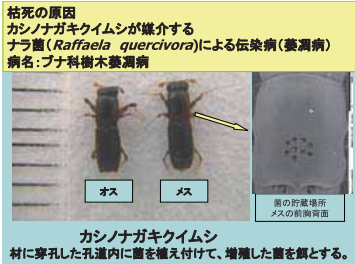


森林
病害虫

ドングリの木、枯死被害の拡大
～ カシノナガキクイムシが運ぶ「ナラ菌」によるナラ類の枯死被害 ～

研究目的

近年、コナラ、ミズナラ、シイ・カシ類などナラ類が集団で枯れる被害が県西部で発生し、これが県東部へ急速に拡大しています。これはカシノナガキクイムシ(以下「カシナガ」といふ昆虫が「ナラ菌」とよばれる病原菌を健全なナラ類の木に媒介することで発生します。ナラ類は島根県の広葉樹の面積の6割を占める主要な樹種です。この被害を防ぐため、被害の発生状況と防除方法について調査を行いました。

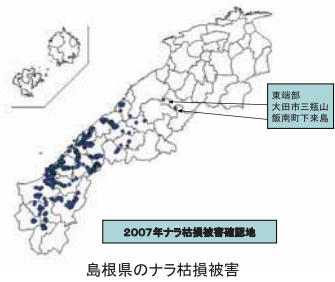


研究概要および結果

- ①平成15~19年の被害の発生状況及び拡大状況を調査しました。その結果、平成19年には大田市、赤来町、川本町、石見町(旧市町村名)と県中央部まで枯死被害が拡大していることを確認しました。被害を受けたナラ類の枯死木本数は、平成15年165本であったものが平成19年には2,316本と大幅に増加しました。
- ②平成19年に粘着材(カシナガの穿入防止)の樹幹塗布、樹木活性剤(枯損防止)の樹幹注入など防護資材を用いて単木への防除試験を実施しました。防護資材の処理木、未処理木へのカシナガの寄生数が少なかったため、単年の処理効果は判定できず、経過調査を行っています。

成果の活用

被害拡大を防止するため、被害材の駆除の徹底、被害材を未被害地へ移動しない、などの留意事項をまとめ森林所有者等へ周知しました。単木処理は防除効果が限定されるので、広域で実施可能な防除方法の確立が必要です。このため、平成20年度から森林総合研究所ほかと共同で、カシノナガキクイムシが放出する集合フェロモンを利用した駆除試験を実施します。



ナラ枯損は被害地が東部へ拡大



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ 森林保護育成グループ
担当研究者 福井修二(ふくい しゅうじ)

問い合わせ先 0854-76-3822
E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: ナラ類の集団枯損被害の防除技術に関する研究(研究期間:H15~19)